

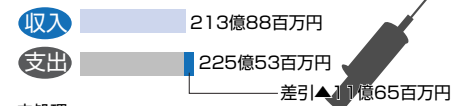
### 病院事業

病院事業では、病床利用率の向上、経費縮減など、経営健全化に努めた結果、約13億円の資金残となりましたが、未処理欠損金は114億89百万円と、なお厳しい状況にあります。

平成13年度の患者数は、入院で一日平均928人、外来では一日平均2,410人と、入院、外来とも前年度に比べて若干の増加となりました。また、心臓超音波診断システムなどを購入し、医療環境の整備と診断内容の充実に努めました。

今後、新病院建設のために発行した企業債の償還が本格化するため、これまで以上に経営の効率化に努めていきます。

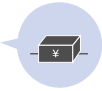
#### 収益的収支の状況



未処理欠損金 114億89百万円

#### ■資金の状況

13億34百万円の資金残

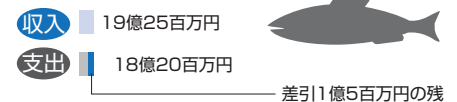


### 中央卸売市場事業

景気の低迷などにより、水産物、青果物ともに取扱量、取扱高が前年度を下回りました。このため、収入面では売上高割使用料が大きく減少しましたが、支出面では人件費、諸経費の縮減に努め、収益的収支は黒字となりました。

また、平成10年度から取り組んでいる再整備事業では、水産棟新築工事に着手したほか、市場内の情報ネットワークが本格的に稼動しました。

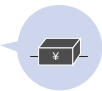
#### 収益的収支の状況



未処理利益剰余金 34億53百万円

#### ■資金の状況

65億91百万円の資金残

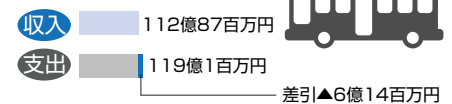


### 交通事業（電車・バス）

平成13年度の収益的収支は、乗車人員の減などのため、6億14百万円の赤字となり、依然として厳しい経営状況にあります。

こうした中、平成13年度は、老朽化した電車の車体更新や軌道改良を実施したほか、人や環境にもやさしいバスとして、天然ガス車のノンステップバスを導入するなど、乗客サービスの向上に努めました。

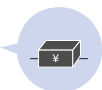
#### 収益的収支の状況



未処理欠損金 6億84百万円

#### ■資金の状況

13億5百万円の資金残

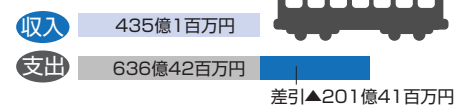


### 高速電車事業（地下鉄）

平成13年度の収益的収支は、多額な建設費の利息負担などで、201億41百万円の赤字となりましたが、前年度よりも32億73百万円プラスに転じています。赤字幅は縮小していますが、未処理欠損金は4,122億86百万円に達するなど、引き続き非常に厳しい経営状況にあります。

平成13年度の輸送人員は、札幌ドームの完成により東豊線が前年度比3.4%増加したものの、全体では0.3%減の1日当たり56万4千人となり、減少傾向が続いています。

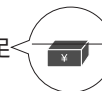
#### 収益的収支の状況



未処理欠損金 4,122億86百万円

#### ■資金の状況

29億95百万円の資金不足



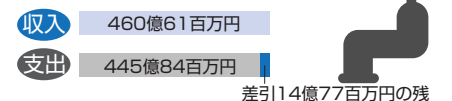
### 水道事業

より一層信頼性の高い水道システムの構築を目指し、継続事業である藻岩浄水場の大規模改修、配水管の敷設工事、災害対策施設・高区配水施設の整備などを行いました。

また、巡回サービスの実施など、市民サービスの向上に努めました。

配水管の総延長は5,478キロメートルと、前年度に比べて約60キロメートルの増加。また、給水人口は182万4,120人で、前年度比0.7%の増。普及率は99.8%となっています。

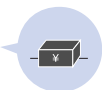
#### 収益的収支の状況



未処理利益剰余金 28億30百万円

#### ■資金の状況

87億82百万円の資金残



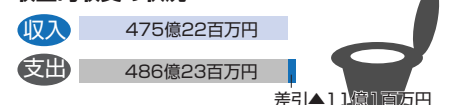
### 下水道事業

都市型浸水被害に対応するため、雨水拡充管の整備を進める一方、市民要望の高い雪対策の一環として、融雪管などの整備に取り組みました。

また、未整備地区の解消に努めたほか、水質の改善を目指し、伏古川貯留管の整備を行いました。さらに、東部処理場の新設工事を引き続き進めるとともに、管路や処理場・ポンプ場施設の改築・更新も行いました。

管路の総延長は7,785キロメートルとなり前年度比0.9%増、普及率は99.3%で前年度比0.1%増となりました。

#### 収益的収支の状況



未処理欠損金 221億28百万円

#### ■資金の状況

63億58百万円の資金残

